

60分でわかる新約聖書(21) 「ペテロの手紙第一」

1. はじめに

(1) ペテロの手紙第一の位置づけ

- ①5つあるメシアニック・ジュー書簡の第3番目
(ヘブル人への手紙、ヤコブの手紙、ペテロの手紙第一と第二、ユダの手紙)
- ②異教社会にあつて迫害に苦しむ信者たちを励ますための手紙
*ユダヤ人信者と異邦人信者
- ③ネロによるクリスチャンの迫害は、64年に始まった。
*7月にローマの町に放火し、10月に教会の迫害を開始した。
- ④この手紙は、64年前後に書かれたと思われる。

(2) 著者は、ペテロである。

- ①自分のことを、「イエス・キリストの使徒ペテロ」(1:1)と紹介している。
- ②元はシモンという名であったが、イエスによってケファと呼ばれた。
- ③ヨハ1:42
「…イエスはシモンを見つめて言われた。『あなたはヨハネの子シモンです。あなたはケファ(言い換えれば、ペテロ)と呼ばれます』」
*ケファはアラム語、ペテロはギリシア語で、ともに「岩」という意味。
*イエスは、彼が岩のような不動の人物になることを見抜いていた。
- ④使4:13
「彼らはペテロとヨハネの大胆さを見、また二人が無学な普通の人であることを知って驚いた」
*無学な普通の人とは、ラビ教育を受けていないという意味である。
*約30年間の奉仕で、ギリシア語を身に付けたと考えられる。
- ⑤「わたしの羊を飼いなさい」(ヨハ21:17)という命令を実行している。

(3) 受け取り手は、小アジアの各地に離散した信者たちである。

- ①「ポントス、ガラテヤ、カパドキア、アジア、ビティニアに散って寄留している選ばれた人たち、」(1:1)
*今日のトルコ北部
- ②ユダヤ人信者への言及
*「寄留している選ばれた人たち」(1:1)
*「離散して仮住まいをしている選ばれた人たち」(新共同訳)
*約束の地以外は、「ディアスポラの地」である。
- ③異邦人信者への言及

* 「以前、無知であったときの欲望に従わず」 (1:14)

* 「以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、あわれみを受けたことがなかったのに、今はあわれみを受けています」 (2:10)

④彼らは、イエス・キリストに対する信仰のゆえに迫害に遭っていた。

(4) この手紙のテーマは、迫害の中における「恵み」である。

①「忠実な兄弟として私が信頼しているシルワノによって、私は簡潔に書き送り、勧めをし、これが神のまことの恵みであることを証しました。この恵みの中にしっかりと立っていなさい」 (5:12)

2. アウトライン

(1) 救いと神の恵み (1:3~2:10)

(2) 従順と神の恵み (2:11~3:12)

(3) 苦難と神の恵み (3:13~5:11)

ペテロの手紙第一からから教訓を学ぶ。

I. 救いと神の恵み (1:3~2:10)

1. 1:3

1Pe 1:3 私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちが新しく生まれさせ、生ける望みを持たせてくださいました。

(1) ここでペテロは、救いの将来的側面について語っている。

①私たちが救われたのは、父なる神の「大きなあわれみ」のゆえである。

②救いの方法は、「新しく生まれる」ということ、つまり「新生」である。

③救いの土台になっているものは、イエス・キリストの復活である。

④私たちは、天に蓄えられている資産を受け継ぐようになった。

⑤この資産は、天で安全に保管されている。

2. 1:6~7

1Pe 1:6 そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいますが。今しばらくの間、様々な試練の中で悲しまなければならないのですが、

1Pe 1:7 試練で試されたあなたがたの信仰は、火で精錬されてもなお朽ちていく金よりも高価であり、イエス・キリストが現れるとき、称賛と栄光と誉れをもたらします。

(1) ここでペテロは、救いの現在の側面について語っている。

①クリスチャンにも困難は襲ってくるが、その中であって喜ぶことができる。

②火を通して金を精錬するように、神は患難を通して信仰を精錬する。

③信仰の精錬は、再臨の時には、称賛と栄光と栄誉に至るものである。

(2) この手紙の受取人たちは、第2世代のメシアニック・ジューたちである。

①彼らは、イエス・キリストを見たことはない。

②しかし、この方がメシアであると信じ、この方を愛している。

③信者が喜びを感じるのは、信仰の結果である魂の救いを得ているから。

3. 1:10

1Pe 1:10 この救いについては、あなたがたに対する恵みを預言した預言者たちも、熱心に尋ね求め、細かく調べました。

(1) ここでペテロは、救いの過去の側面について語っている。

①新約の信者は、旧約の預言者たちが知り得なかったことを知らされた。

②それは、使徒たちによって伝えられた「福音」である。

③「苦難」と「栄光」というテーマが見事に調和した。

④「苦難」とは、十字架の苦しみを頂点としたメシアの受難のことである。

⑤「栄光」とは、メシアの復活、召天、神の右の御座への着座、再臨、そして千年王国の統治まで含む概念である。

II. 従順と神の恵み (2:11~3:12)

1. 2:11~12

1Pe 2:11 愛する者たち、私は勧めます。あなたがたは旅人、寄留者なのですから、たましいに戦いを挑む肉の欲を避けなさい。

1Pe 2:12 異邦人の中にあつて立派にふるまいなさい。そうすれば、彼らがあなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたの立派な行いを目にして、神の訪れの日に神をあがめるようになります。

(1) 信者は、天国の国籍を持ちながら、地上では「旅人であり寄留者」である。

①「たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざける」必要がある。

②「肉の欲」(ガラ5:19~21)

「不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、など」

2. 2:13~14

1Pe 2:13 人が立てたすべての制度に、主のゆえに従いなさい。それが主権者である王であつても、

1Pe 2:14 あるいは、悪を行う者を罰して善を行う者をほめるために、王から遣わされた総督であつても、従いなさい。

(1) 公の権威に、主のゆえに従う。

- ①人の立てたすべての制度は、神の許しによって立てられている。
- ②公の権威は、悪を行う者を罰し、善を行う者を誉めるために立てられている。
- ③唯一の例外は、権威が神の御心に反することを強要した場合に起こる。
- ④「人に従うより、神に従うべきです」(使5:29)

(2) 自由人として行動する。

- ①信者が持つ自由は、「神の奴隷」として生きるための自由である。
- ②「神以外の何者の奴隷にもならない」というのが、その自由の本質である。
- ③自由を用いて、すべての人を敬い、兄弟たちを愛し、神を恐れ、王を尊ぶ。

3. 2:18

1Pe 2:18 しもべたちよ、敬意を込めて主人に従いなさい。善良で優しい主人だけでなく、意地悪な主人にも従いなさい。

(1) 召使である者は、敬意を込めて主人に従うべきである。

- ①主人が善良であっても、横暴であっても、同じように仕えなければならない。
- ②横暴な主人であっても、正当な命令なら従えということである。
- ③罪のゆえに打ちたたかれ、それを耐え忍んでも、なんの誉れにもならない。
- ④善を行なっていて苦しみを受け、それを耐え忍ぶなら、神に喜ばれる。

(2) 信者が見習うべき手本は、キリストの受難である。

- ①ペテロは、イザヤ書53章を背景にしながらこの箇所を書いている。
- ②キリストは、信者のために「模範」を残された。

4. 3:1

1Pe 3:1 同じように、妻たちよ、自分の夫に従いなさい。たとえ、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって神のものとされるためです。

(1) 女性の男性に対する服従ではなく、妻の夫に対する服従を教えている。

- ①たとい不信者の夫であっても、従順に振る舞うべきである。
- ②妻の「神を恐れかしこむ清い生き方を見た」結果、救われる可能性がある。
- ③夫は妻の言葉によってではなく、行動によって救われる。

5. 3:7

1Pe 3:7 同じように、夫たちよ、妻が自分より弱い器であることを理解して妻とともに暮らさなさい。また、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。そうすれば、あなたがたの祈りは妨げられません。

- (1) 夫には神に対して従順であることが求められる。
 - ①それを前提として、夫は妻に対する行動を決めねばならない。
 - ②夫が妻を愛するのは、神に対する従順の表れである。
 - ③夫は妻が、「自分よりも弱い器」だということをわきまえる必要がある。
 - ④夫婦はともに努力し、「いのちの恵みをともに受け継ぐ」のである。
 - ⑤夫婦が協力し合って産むものが2つある。
 - *一つは子どもであり、もう一つは祈りの答えである。

Ⅲ. 苦難と神の恵み(3:13~5:11)

1. 3:18~19

1Pe 3:18 キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。

1Pe 3:19 その霊においてキリストは、捕らわれている霊たちのところに行って宣言されました。

- (1) 信者の手本は、キリストである。
 - ①キリストは正しい方であったが、悪人の身代わりとなって一度死なれた。
 - ②肉においては死に渡され、霊においては生かされた。
 - ③十字架上でキリストの霊は死んだ(父なる神との断絶)。
 - ④肉体的な死の前に、キリストの霊は復活した(「父よ」と呼びかけた)。
 - ⑤キリストの霊は、肉体的に死ぬ前に復活した。

- (2) 復活した霊の状態、キリストは死者が行く場所に行かれた。
 - ①それが「ハデス(黄泉)」、旧約では「シェオール」と呼ばれている場所。
 - ②昇天する前なので、ハデスには祝福の場所と苦しみが存在していた。
 - ③ハデスの苦しみのある場所に行って、「捕らわれの霊たち」に「宣言」された。
 - ④この言葉は、「宣教する」とか「福音を伝える」とかいう意味ではない。
 - ⑤「捕らわれている霊たち」とは、「墮落した天使(悪霊のこと)」である。
 - ⑥創世記6章に出てくる人間と結婚した墮天使たちのことである。
 - ⑦彼らは、ノアの時代に神に反抗した墮天使たちである。
 - ⑧ノアが作った箱舟は、新約時代の信者が受ける洗礼の型となっている。

2. 4:12~13

1Pe 4:12 愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間で燃えさかる試練を、何か思いがけないことが起こったかのように、不審に思っはけません。

1Pe 4:13 むしろ、キリストの苦難にあずかればあずかるほど、いっそう喜びなさい。キリストの栄光が現れるときにも、歓喜にあふれて喜ぶためです。

- (1) 試練を何か思いがけないもののように考えるべきではない。
 - ①試練が襲って来た時には、むしろ喜ぶべきである。
 - ②試練に耐えた者は、再臨の時とともに喜びおどる者となるからである。
 - ③試練の中でこそ、聖霊の力を経験するようになる。
 - ④信者は、自分の罪のゆえに苦しむようなことがあってはならない。
 - ⑤キリスト者として苦しみを受けるのなら、恥じることはない。

3. 4:7~8

1Pe 4:7 万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。

1Pe 4:8 何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。

60分でわかる新約聖書(22) 「ペテロの手紙第二」

1. はじめに

(1) ペテロの手紙第二の位置づけ

- ①5つあるメシアニック・ジュー書簡の第4番目
(ヘブル人への手紙、ヤコブの手紙、ペテロの手紙第一と第二、ユダの手紙)
- ②1ペテは、迫害に苦しむ信者たちを励ますための手紙であった。
 - *ユダヤ人信者と異邦人信者
- ③ネロによるクリスチャンの迫害は、64年に始まった。
- ④1ペテは、64年前後に書かれたと思われる。
- ⑤2ペテは、64年～68年(殉教の死の年)の間に書かれたと思われる。

(2) 著者は、ペテロである。

(3) 受け取り手は、1ペテと同じである。

①2ペテ3:1

2Pe 3:1 愛する者たち、私はすでに二通目となる手紙を、あなたがたに書いています。これらの手紙により、私はあなたがたの記憶を呼び覚まして、純真な心を奮い立たせたいのです。

- ②彼らは、小アジアの各地に離散した信者たちである。
- ③「ポントス、ガラテヤ、カパドキア、アジア、ビティニアに散って寄留している選ばれた人たち、」(1ペテ1:1)
 - *今日のトルコ北部
 - *ユダヤ人信者と異邦人信者

(4) この手紙のテーマは、キリストに関する知識を深めることである。

- ①1ペテでは、受け取り手は霊的な赤子と見なされていた。
 - *みことばの乳を慕い求めるようにという奨励があった。
- ②2ペテでは、彼らは固い食物(肉)を食べられる状態にまで成長した。
- ③ペテロの願いは、彼らの上にさらに恵みと平安が注がれることである。
- ④それが実現する方法は、キリストに関する知識を深めることである。
- ⑤キリストに関する知識を深めれば、異端にもあそばれることはなくなる。

2. アウトライン

*あいさつ(1:1~2)

(1) クリスチャンの資質(1:3~11)

- (2) クリスチャンの霊的成長 (1:12~21)
- (3) クリスチャンの霊的戦い (2:1~22)
- (4) クリスチャンの希望 (3:1~16)
- *結びのことば (3:17~18)

ペテロの手紙第二からから教訓を学ぶ。

I. クリスチャンの資質 (1:3~11)

1. ペテロは、霊的成長の過程を説明している (1:5~7)。

2Pe 1:5 だからこそ、あなたがたはあらゆる熱意を傾けて、信仰には徳を、徳には知識を、

2Pe 1:6 知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、

2Pe 1:7 敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。

(1) 「だからこそ」

- ①結果は保証されているので、あらゆる努力をして成長を求めよう。
- ②神にゆだねることと、怠惰であることとは、全く別のものである。
- ③「信仰には〇〇を、〇〇には〇〇を加えなさい」とある。
- ④「加えなさい」という動詞から、「コーラス」という言葉が派生している。
- ⑤一連の過程を踏んで、信仰のハーモニーを体験するようになる。

(2) 成長過程

- ①信仰には徳を (徳とは、道徳的判断をする力である)。
- ②徳には知識を (知識とは、本質を見抜き、識別する力である)。
- ③知識には自制を (自制とは、自己管理能力のことである)。
- ④自制には忍耐を (忍耐とは、試練の中で耐える力である)。
- ⑤忍耐には敬虔を (敬虔とは、霊的なものを尊ぶ心である)。
- ⑥敬虔には兄弟愛を (兄弟愛とは、信者同士の間で成立する愛である)。
- ⑦兄弟愛には愛を加えなさい (愛こそ最も大いなる資質である)。

2. 霊的に成長した信者の資質

(1) 主イエスを知る知識

- ①これは、単に情報が多くなるということではなく「全き知識」のことである。
- ②メシアであるイエスを、完全に知り体験することである。

(2) 豊かな実

- ①主イエスを知れば知るほど、その人が結ぶ実は豊かになる。
- ②怠惰、不信仰は、不毛の人生をもたらすだけである。

(3) 霊的盲目からの解放

- ①霊的に成長していない人は、霊的に盲目状態にある。
- ②何が真理で何が偽物か、判断できない状態にある。
- ③過去の恵みを忘れ、将来の希望にも目を向けることができない状態にある。
- ④今のことしか見ていないので、常に不安定な状態にある。

II. クリスチャンの霊的成長(1:12~21)

1. 霊的成長の土台は、神の啓示のことば、つまり「聖書」である(1:12)。

2Pe 1:12 ですから、あなたがたがこれらのことをすでに知り、与えられた真理に堅く立っているとはいえ、私はあなたがたに、それをいつも思い起こさせるつもりです。

- (1) 手紙の受け手たちは、すでに真理を知り、そこに堅く立っていた。
 - ①ペテロは、すでに知っている真理を思い出すようにと勧めている。
 - ②彼がこれを書いている目的は、信者を「真理に堅く立たせる」ためである。
- (2) ペテロは、自らの死期が近いことを予感していた。
 - ①それは自然死ではなく、殉教の死である。
 - ②そのことを主イエスが預言していたからである(ヨハ21:18~19)。
 - ③使徒たちの死後のために、書かれたことばを残しておく必要がある。
 - *これが新約聖書である。
 - ④ペテロは、自らの使命を地上生涯において完成させようと努力している。

2. 使徒の教えには権威がある。

- (1) 使徒たちの教えは、「巧みな作り話」ではない。
 - ①「巧みな作り話」とは、ユダヤ教の伝承(ミシュナの律法)のことである。
 - ②使徒たちの教えは、主イエスから直接受けたものである。
 - *変貌山で、3人の弟子たちは主イエスの変貌の様子を目撃した。
 - *ペテロ、ヤコブ、ヨハネが目撃した。
 - ③その時、父なる神からこういう声がかかった。
「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ」
 - ④新約聖書の教えは、イエスが語り、それを使徒たちが伝えたものである。
 - ⑤その信頼性は、主イエスの変貌と父なる神の声によって証明された。

(2) 聖書は、自分勝手に解釈するものではない(1:20~21)。

2Pe 1:20 ただし、聖書のどんな預言も勝手に解釈するものではないことを、まず心得ておきなさい。

2Pe 1:21 預言は、決して人間の意志によってもたらされたものではなく、聖霊に動かされた人たちが神から受けて語ったものです。

- ① 霊的な視点を無視して自分勝手に解釈することを禁止している。
- ② 正しい解釈のためには、解釈学の原則を知り、聖霊の導きに従ってその原則を適用する能力が要求される。
- ③ 聖書の預言は、すべて聖霊の靈感によるものである。

III. クリスマンの霊的戦い(2:1~22)

1. にせ教師に関する警告

- (1) にせ教師は、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込む。
 - ① 彼らは、主イエスが神であり人であることを否定する。
 - ② さらに、主イエスの贖いのわざも否定する。
 - ③ にせ教師の最後は、滅びしかない。
 - ④ にせ教師に惑わされる人も、その身に滅びを招くことになる。

(2) にせ教師の特徴

- ① にせ教師は、好色である。
- ② また彼らは、貪欲である。
- ③ さらに彼らは、金銭的利得のためなら平気でうそをつく。

(3) 歴史からの教訓

- ① 罪を犯した天使たちの例(創6章)
 - * 人間の女たちと結婚した墮天使たち
- ② ノアの例
 - * ノアを含む8人の者たちは、滅びから救い出された。
 - * ノアが語る悔い改めのメッセージを信じなかった者たちは、滅びた。
- ③ ソドムとゴモラの例
 - * 淫乱で墮落した町ソドムとゴモラは、神のさばきによって破滅した。
- ④ ロトの例
 - * ロトはソドムに住んでいたが、滅びからは救い出された。
 - * 彼は義人であり、住民たちの墮落した生活を見て日々心を痛めていた。

2. にせ教師の特徴

- (1) 正当な権威に対して反抗的である。
- (2) 不遜で傲慢である。
- (3) 無知である。

- (4) 欺瞞に満ちている。
- (5) 淫乱な思いに満たされている。
- (6) バラムの罪を犯している(貪欲で不義の報酬を愛した)。
- (7) 実質を持っていない(枯かれた泉)。
- (8) 突風が吹けば消えてなくなる霧のように頼りない存在である。

3. にせ教師に惑わされる人

- (1) この世の汚れから脱出できたはずなのに、再び不道德な生活に戻って行く。
 - ①彼らは、最初から救われていなかった。
 - ②「犬は自分の吐いた物に戻る」(箴言26:11)

IV. クリスチャンの希望(3:1~16)

1. 終わりの日に、あざける者が出現すると警告を発している(3:3~4)。

2Pe 3:3 まず第一に、心得ておきなさい。終わりの時に、嘲る者たちが現れて嘲り、自分たちの欲望に従いながら、

2Pe 3:4 こう言います。「彼の来臨の約束はどこにあるのか。父たちが眠りについた後も、すべてが創造のはじめからのままではないか。」

- (1) 彼らは、キリストの再臨の教理をあざける。
 - ①彼らは、神が超自然的に人類の歴史に介入されたことを否定する。

2. ペテロは、3つのポイントを挙げて反論する。

- (1) 彼らは、意図的に無知になっている。
 - ①神が超自然的に人類の歴史に介入されたことを無視している。
- (2) 神は裁きという形で超自然的に、有限な世界に介入された。
 - ①地は神のことばによって水から出て、水によって成った。
 - ②そのようにして創造された地は、一度洪水によって滅ぼされた。

- (3) 神は再び、裁きをもって超自然的にこの世界に介入される。
 - ①今の天と地は、やがて火によって焼かれる。
 - ②今度は、水による裁きではなく、火による裁きが来る。

3. 神と時の関係

- (1) 神は時に縛られてはいない(3:8)。

2Pe 3:8 しかし、愛する人たち、あなたがたはこの一つのことを見落としてはいけません。主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。

- ①人間の目には長い年月と思えることでも、神の目には一瞬のことである。
- ②神は、時間を超越している。
- ③再臨が人の目に遅れているように見えるのは、神が無能だからではない。
- ④神は、さらに多くの人々が救われるように、「恵みの時」を延ばしておられる。

(2) 主の日(3:10)

2Pe 3:10 しかし、主の日は盗人のようにやって来ます。その日、天は大きな響きを立てて消え去り、天の万象は焼けて崩れ去り、地と地にある働きはなくなってしまう。

- ①「主の日」は、患難時代を指す言葉である。
- ②患難時代は、7年間続く。
- ③「主の日」は未信者にとっては、盗人のように突如やって来る。
*これは、1テサ5:2~3でパウロが書いている内容と同じである。
- ④今私たちが見ている天と地は、火によって焼かれる。
*マタ24:29、黙6:12~14、8:12。
- ⑤その後に出現するのが、メシア的王国(千年王国)である。
- ⑥黙21~22章の「新しい天と新しい地」とは異なる地上における千年王国。
- ⑦このような確信を持つ者は、清く敬虔に生きることを心がけるはずである。

4. パウロの手紙にある預言

(1) 自分の教えの信頼性を示すために、パウロの手紙を取り上げる。

- ①再臨が遅れているように見えるのは、主の忍耐のゆえである。
- ②パウロもまたそれと同じことを書いている(ガラテヤ人への手紙)。
- ③ペテロは「私たちの愛する兄弟パウロ」と呼んでいる。
- ④ペテロとパウロは、一度仲たがいをしたことがある。
- ⑤ペテロは、パウロの上に神からの知恵が注がれていることを認めた。
- ⑥パウロの手紙には難解な個所があると書いている。
*深く学ばなければ理解が難しいという意味である。
- ⑦ところが、無知で心の定まらない人たちは、パウロの手紙を曲解し、自分自身に滅びを招いている。

(2) 結語(3:18)

2Pe 3:18 私たちの主であり、救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。イエス・キリストに栄光が、今も永遠の日に至るまでもありますように。

- ①キリストの恵みにとどまり、キリストを知る知識を熱心に求めよう。

60分でわかる新約聖書(23) 「ヨハネの手紙第一」

1. はじめに

(1) 1ヨハの位置づけ

①簡単な言葉で、深い霊的真理が教えられている。

*簡単に説明できないなら、本質を理解しているとは言えない。

②著作年代に関する議論

*エルサレム崩壊の前(60年代)に、エルサレムで書かれた。

*紀元1世紀の終わり頃(80~95年)に、書かれた。

(2) 著者

①ヨハネの手紙第一、第二、第三は、伝統的に使徒ヨハネのものとされている。

②1ヨハには、著者名も宛名も記されていない。

*恐らく、アジアの諸教会宛てに送られた回覧書簡であろう。

③2ヨハと3ヨハでは、「長老」という呼称が出て来る。

*「長老」としてその存在が知られていた人物は、使徒ヨハネだけである。

④ヨハネは、福音書、3つの書簡、黙示録を書くように聖霊によって導かれた。

*福音書

・救い(義認)が強調されている。

・過去の歴史が描かれている。

・キリストは私たちのために十字架上で死なれた。

*3つの書簡

・聖化が強調されている。

・信者の現在の体験が描かれている。

・キリストは私たちの内に住んでおられる。

*黙示録

・栄化が強調されている。

・信者の将来の希望が描かれている。

・キリストは私たちのために再臨される。

(3) 執筆の背景と目的

①教会の中にグノーシス主義と呼ばれる異端的な教えが蔓延しつつあった。

*「イエスがキリストであることを否定する者」(2:22)

*「反キリスト」(2:22、4:3)

*「偽預言者」(4:1)

②グノーシス主義は、霊を善とし、肉や物質を悪と見なす霊肉二元論である。

- *その論を推し進めていけば、イエスの受肉の否定につながる。
- *悪である肉をどのように用いても、霊に対する影響はない。
- *これは、放縦な生活を容認する教えとなる。
- ③グノーシス主義によく似た異端：キリスト仮現論(ドケティズム)
 - *主唱者の名を取ってケリントス主義とも呼ばれていた。
 - *イエスが洗礼を受けた時にキリストが鳩の形をして彼の上を下り、十字架上の死の前にキリストは彼から去った。
 - *苦しんだのはイエスという人物であって、キリストは受難とは無関係。
- ④ヨハネは、異端的な教えに対して警告を発し、真の信仰とは何かを説明した。
- ⑤ヨハネは、教理面と実践面の両面からこの書簡を書いている。
- ⑥3つのテーマが繰り返されている(ヘブル的文学手法)。
 - *光 vs. 闇
 - *愛 vs. 憎しみ
 - *真理 vs. 偽りの教え
- ⑦ヨハネは、5つの目的をもってヨハネの手紙第一を書いている。

2. アウトライン

- (1) 交わりを持つようになるため(1:3)
- (2) 喜びが満ち溢れるため(1:4)
- (3) 罪を犯さないようになるため(2:1~2)
- (4) 偽りの教えに勝つため(2:26~27)
- (5) 永遠のいのちの確信を持つため(5:13)

ヨハネの手紙第一から教訓を学ぶ。

I. 交わりを持つようになるため(1:3)

1. 3節

1Jn 1:3 私たちが見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えます。あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父また御子イエス・キリストとの交わりです。

- (1) 最初の2章のテーマは、「交わり」である。
 - *「交わり」は「コイノニア」である。
 - ①神の子としての身分は変わらない。
 - ②神との交わりは、日々変化する。
 - ③神との交わりの変化は、信者同志の交わりにも影響を与える。
- (2) 「私たちが見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えます」

- ①これは、グノーシス主義の否定である。
- ②「私たち」とは、使徒たちのことである。
- ③グノーシス主義者は、使徒たちとの交わりから離れて行った。
- ④使徒たちは、聖霊による新生を体験し、御父と御子との交わりに入った。
- ⑤同じ信仰で使徒たちとの交わりに入る者は、御父と御子との交わりに入る。
- ⑥使徒たちの死後、その教えを守ることが「使徒たちとの交わりに入ること」。

II. 喜びが満ち溢れるため(1:4)

1. 4節

1Jn 1:4 これらのことを書き送るのは、私たちの喜びが満ちあふれるためです。

(1) 古い写本の中には「あなたがたの喜び」となっているものがある。

- ①「私たちの喜び」：読者が御父と御子との交わりの中に導かれるなら、それが使徒たちの喜びとなるという意味である。
- ②「あなたがたの喜び」：真の喜びは御父と御子との交わりの結果与えられるものだという意味である。
- ③この聖句は、どちらの意味も含んでいるように思える。

(2) イエスをメシアと信じる人には、この世で味わえない喜びが与えられる。

- ①その喜びは、御父と御子との交わりに参加することによって与えられる。
- ②ヨハ15:11

Joh 15:11 わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたが喜びで満ちあふれるようになるために、わたしはこれらのことをあなたがたに話しました。

(3) 交わりを回復する方法

- ①1ヨハ1:7~9

1Jn 1:7 もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。

1Jn 1:8 もし自分には罪がないと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私たちのうちに真理はありません。

1Jn 1:9 もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

III. 罪を犯さないようになるため(2:1~2)

1. 1~2節

1Jn 2:1 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。しかし、もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の前でとりなしてくださる方、義なるイエス・キリストがおられます。

1Jn 2:2 この方こそ、私たちの罪のための、いや、私たちの罪だけでなく、世全体の罪のための宥めのささげ物です。

(1) 「これらのことを書き送る」

- ①父なる神は光である。
- ②神との交わりを持つ人は、光の中を歩み他の信者との交わりを持つ。
- ③神との交わりを維持するためには、日々の罪の告白が必要である。

(2) 「罪を犯さないようになるため」

- ①絶対に罪を犯さなくなるという意味ではない。
- ②習慣的な罪から解放されるということである。
- ③イエスを信じた時から、聖霊が私たちの心に宿ってくださる。
- ④聖霊は私たちの内面を変え、私たちを主の似姿に作り上げてくださる。
- ⑤しかし、だれでも、信者になってからも罪を犯す可能性を持っている。
- ⑥もし罪を犯した場合はどうなるのか。

*父なる神の前で弁護してくださる方がおられる。

*それゆえ、直ちにその罪を告白すればよい。

*その弁護士とは「義なるイエス・キリスト」である。

*キリストは律法の要求を満たし、罪人の身代わりとして死なれた。

*復活は、父なる神がその贖罪の死を受け入れたことを示している。

*今キリストは、私たちのために執りなしをしてくださる。

(3) ロマ 8 : 34~35

Rom 8:34 だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしてくださるのです。

Rom 8:35 だれが、私たちをキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。

IV. 偽りの教えに勝つため (2 : 26~27)

1. 26~27 節

1Jn 2:26 私はあなたがたを惑わす者たちについて、以上のことを書いてきました。

1Jn 2:27 しかし、あなたがたのうちには、御子から受けた注ぎの油がとどまっているので、だれかに教えてもらう必要はありません。その注ぎの油が、すべてについてあなたがた

に教えてくれます。それは真理であって偽りではありませんから、あなたがたは教えられたとおり、御子のうちにとどまりなさい。

(1) ヨハネは、狼から羊を守るために労している。

①使 20 : 29

Act 20:29 私は知っています。私が去った後、狂暴な狼があなたがたの中に入り込んで来て、容赦なく群れを荒らし回ります。

②「以上のことを書いてきた」

*信者は、父なる神とキリストとの交わりを持っている。

*信者は、神の真理を知っている。

*それゆえ、新しい教えに振り回されてはいけない。

*初めから聞いたこと(福音のことば)を心に留めることが大切である。

*そうすれば、私たちは御子と御父のうちに留まるのである。

(2) ヨハネは、再度聖霊の働きについて書いている。

①「御子から受けた注ぎの油がとどまっている」

②「だれからも教えを受ける必要がありません」

*全く教えてもらう必要がないという意味ではない。

*偽教師から教えてもらう必要がないという意味。

*あるいは、信仰の基本について教えてもらう必要がないという意味。

③キリストの福音は、私たちに永遠のいのちを与えるものである。

④初めから聞いた福音のことばにとどまり続けようではないか。

V. 永遠のいのちの確信を持つため(5:13)

1. 13節

1Jn 5:13 神の御子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書いたのは、永遠のいのちを持っていることを、あなたがたに分からせるためです。

(1) ヨハネはその福音書でも、最後に執筆目的を記している。

①ヨハ 20 : 31

Joh 20:31 これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。

②ヨハネの福音書は、どうすれば永遠のいのちを得ることができるのかについて記している(イエスの御名によっていのちを得る)。

(2) 1ヨハの執筆目的は、イエスを信じた者に永遠のいのちを確信させること。

①その方法は、神の命令を守ることである。

②それによって、私たちは神を知っているということが分かる。

- ③神の命令に対する従順こそ、キリストを知っており、キリストに属していることの明らかな証明である。
- ④もしキリストに従っていないなら、その人はキリストに属していないし、キリストを愛してもいない。
- ⑤「神を知っている」と言っているのは、グノーシス主義者たちである。
- ⑥彼らはそう主張しながら、神の命令を守っていない。
- ⑦神の命令を守っていることと、神を知っていることはイコールである。
- ⑧さらに、神を愛するとは、みことばを守ることである。これが真理である。
- ⑨律法的にならないで神の命令を守る方法は、一つしかない。
 - *愛で応答すること
 - *愛でみことばを实践すること
- ⑩みことばを守れば守るほど、神に対する愛と、神に関する知識が増えて来る。
- ⑪やがてその人は、キリストにある成人として立てるようになる。
- ⑫グノーシス主義者ではなく、神の命令を守る人こそ、真の「知識」を持つようになる。

結論

- (1) 交わりを持つようになるため(1:3)
- (2) 喜びが満ち溢れるため(1:4)
- (3) 罪を犯さないようになるため(2:1~2)
- (4) 偽りの教えに勝つため(2:26~27)
- (5) 永遠のいのちの確信を持つため(5:13)

60分でわかる新約聖書（24） 「ヨハネの手紙第二」

1. はじめに

(1) 2ヨハの位置づけ

①短い書簡である。

*通常サイズのパピルス1枚で足りる。

②著作年代に関する議論

*1ヨハと同じ議論が可能である。

*エルサレム崩壊の前（60年代）に、エルサレムで書かれた。

(2) 著者

①ヨハネの手紙第一、第二、第三は、伝統的に使徒ヨハネのものとされている。

②1ヨハには、著者名も宛名も記されていない。

③2ヨハと3ヨハでは、「長老」という呼称が出て来る。

*「長老」としてその存在が知られていた人物は、使徒ヨハネだけである。

④ヨハネの著作

*福音書

・義認が中心テーマである。

・過去の歴史が描かれている。

・キリストは私たちの罪のために死なれた。

*3つの書簡

・聖化が中心テーマである。

・信者の現在の体験が描かれている。

・キリストは私たちの内に住んでおられる。

*黙示録

・栄化が中心テーマである。

・信者の将来の希望が描かれている。

・キリストは私たちのために再臨される。

(3) 執筆の背景と目的

①教会の中にグノーシス主義と呼ばれる異端的な教えが蔓延しつつあった。

②グノーシス主義は、霊を善とし、肉や物質を悪と見なす霊肉二元論である。

③その論を推し進めていけば、イエスの受肉の否定につながる。

④肉をどのように用いても霊に対する影響はないという教えにつながる。

⑤ヨハネは、異端に対して警告を発し、真理のために戦うように勧めている。

2. アウトライン

- (1) あいさつ(1~3節)
- (2) 真理の実践(4~6節)
- (3) 真理のための戦い(7~11節)
- (4) 結語(12~13節)

ヨハネの手紙第二から教訓を学ぶ。

I. あいさつ(1~3節)

1. 1~2節

2Jn 1:1 長老から、選ばれた婦人とその子どもたちへ。私はあなたがたを本当に愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々はみな、愛しています。

2Jn 1:2 真理は私たちのうちにとどまり、いつまでも私たちとともにあるからです。

- (1) 著者は、「長老」である。
 - ①この名前で知られていたのは、使徒ヨハネだけである。
- (2) 宛先は、「選ばれた婦人とその子どもたち」である。
 - ①この言葉は、擬人法で、ある特定の教会を指していると考えられる。
 - ②婦人とは教会、その子どもたちとは、信者のことである。
 - ③この教会は選ばれた教会であり、よく知られていた教会である。
- (3) 「私はあなたがたを本当に愛しています」
 - ①「愛の使徒」「真理の使徒」と呼ばれたヨハネの特徴がよく表われている。
 - ②「真理を知っている人々はみな、愛しています」
 - ③2つの言葉(愛と真理)は、この手紙のキーワードである。
- (4) この教会が愛されている理由は、真理に立っているからである。
 - ①クリスチャンの愛は、単に感情的なものではない。
 - ②真理が私たちのうちにとどまっているなら、私たちの間には愛が育つ。
 - ③真理は愛が育つための土台である。
 - ④それゆえ、真理を堅く守る必要がある。

2. 3節

2Jn 1:3 父なる神と、その御父の子イエス・キリストから、恵みとあわれみと平安が、真理と愛のうちに、私たちとともにありますように。

- (1) パウロやペテロの書簡では、通常「恵みと平安」が用いられる。
 - ①ヨハネは、「真理と愛のうちに」をつけ加えている。

- ②再度言うが、真理は愛が育つための土台である。
- ③真理と愛のうちに留まることが条件となって、父なる神とイエス・キリストから恵みとあわれみと平安が与えられる。

(2) 「父なる神と、その御父の子イエス・キリストから、」

- ①イエス・キリストの神性を表現している。

II. 真理の実践(4~6節)

1. 4節

2Jn 1:4 御父から私たちが受けた命令のとおり、真理のうちに歩んでいる人たちが、あなたの子どもたちの中にいるのを知って、私は大いに喜んでいます。

(1) 「真理のうちに歩んでいる人たちが、あなたがたの子どもたちの中にいるのを知って」

- ①ヨハネは、この教会のメンバーとどこかで出会っている。
- ②ヨハネは、「私は大いに喜んでいます」と自らの感情を吐露している。
- ③喜びの理由は、真理のうちに歩んでいる人たちがたくさんいるからである。
- ④真理と愛は、相関関係にある。

(2) 啓示された命令に従うことが、真理のうちに歩むことである。

- ①その命令は、御父から使徒たちに啓示された。
- ②使徒たちは、それを信者に伝えた。

2. 5節

2Jn 1:5 そこで婦人よ、今あなたにお願いします。それは、新しい命令としてあなたに書くのではなく、私たちが初めから持っていた命令です。私たちは互いに愛し合しましょう。

(1) 「婦人よ」という呼びかけ

- ①この教会は、擬人法で「婦人」と呼ばれている。
- ②ヨハネの親密な感情が表現されている。

(2) ヨハネの命令

- ①新しい命令ではない。
- ②初めから持っていた命令である。
- ③「私たちは互いに愛し合しましょう」

3. 6節

2Jn 1:6 私たちが御父の命令にしたがって歩むこと、それが愛です。あなたがたが初めから聞いているように、愛のうちに歩むこと、それが命令です。

- (1) 互いに愛し合うとは、どういうことか。
 - ①ヨハネは、循環論理を使って、クリスチャン生活のあるべき姿を説明する。
 - ①御父の命令にしたがって歩むことが、愛である。
 - ②愛のうちに歩むことが、命令である。
 - ③神の命令に従った愛でなければ、兄弟姉妹を祝福することはできない。
 - ④神の御心から外れた愛は、祝福をもたらすことができない。

- (2) 単純さのゆえにこの教えを軽視してはならない。
 - ①愛こそクリスチャン生活のゴールである。
 - ②愛は、具体的な形をとって表現されなければならない。
 - ③それが、神の命令に従うということである。
 - ④愛を忘れていたなら、今、初めの愛に立ち返ろうではないか。

Ⅲ. 真理のための戦い (7~11 節)

1. 7 節

2Jn 1:7 こう命じるのは、人を惑わす者たち、イエス・キリストが人となって来られたことを告白しない者たちが、大勢世に出て来たからです。こういう者は惑わす者であり、反キリストです。

- (1) 1ヨハ2:18

1Jn 2:18 幼子たち、今は終わりの時です。反キリストが来るとあなたがたが聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。それによって、今は終わりの時であると分かります。

- (2) ヨハネは、異端の教えに注意するようにとの警告を発している。
 - ①当時の教会を脅かしていた異端は、グノーシス主義と呼ばれるものである。
 - ②その特徴は、イエスの受肉を否定することにある。
 - ③仮現論(ドケティズム)的キリスト論
 - *神の子は人間になったのではなく、仮の姿を取ったにすぎない。
 - ④ケリントス主義的キリスト論
 - *神の子は、受洗と受難との間だけ人の形を取ったとする。
 - ⑤「イエス・キリストが人となって来られたことを告白しない者たち」
 - *彼らは、グノーシス主義者である。
 - ⑥ヨハネは彼らを、「反キリスト」と呼んでいる。
 - *これは、黙示録に登場する反キリストではない。

*反キリストの特徴を備えた者たちである。

⑦使徒時代に異端がはびこったとするなら、今の時代はもっとそうである。

2. 8 節

2Jn 1:8 気をつけて、私たちが労して得たものを失わないように、むしろ豊かな報いを受けられるようにしなさい。

(1) 偽のリーダーに従うことのないように、注意する必要がある。

①偽のリーダーに従っても、救いを失うわけではない。

②失うのは、忠実なしもべに与えられる豊かな報いである。

③神から与えられる報いは、地上生涯を忠実に生きるための動機となる。

3. 9 節

2Jn 1:9 だれでも、「先を行って」キリストの教えにとどまらない者は、神を持っていません。その教えにとどまる者こそ、御父も御子も持っています。

(1) 「先を行って」

①かつて真理を聞き、それを受け入れた。

②しかし、偽教師の教えに影響され、真理から逸脱した。

③その人は、神を後に残して先に行く人である。

④その人は、真理というバウンダリーを超える人である。

⑤クリスチャンが真理から逸脱することは、現実であり得る。

⑥その人は、救いを失うことはないが、報いは失う。

(2) キリストの教えにとどまらない者は、神を持っていない。

①その人は、神なしで自分の道を進んでいる。

(3) キリストの教えにとどまる者は、御父も御子も持っている。

①神がその人とともに歩まれる。

3. 10～11 節

2Jn 1:10 あなたがたのところに来る人で、この教えを携えていない者は、家に受け入れてはいけません。あいさつのことばをかけてもいけません。

2Jn 1:11 そういう人にあいさつすれば、その悪い行いをともにすることになります。

(1) この時代の信者たちは、寛容という言葉とは無縁であった。

①キリストの教えにとどまる人は、異端に対して毅然とした態度を取る。

②異端との戦いは、それほど熾烈なものである。

- (2) 当時のローマ世界では、巡回教師が家々を巡っていた。
- ①教会の霊的リーダーたちも、同じように旅をしていた。
 - ②ヨハネは、異端の教えを持ち込む人を家に迎え入れてはならないと命じた。
 - ③あいさつをすることも控えるべきであると教えた。
 - ④あいさつをすれば、悪い行いに荷担することになる。

IV. 結語 (12～13節)

1. 12節

2Jn 1:12 あなたがたにはたくさん書くべきことがあります、紙と墨ではしたくありません。私たちの喜びが満ちあふれるために、あなたがたのところに行って、直接話したいと思います。

- (1) ヨハネは、近い内にその教会を訪問することを願っている。
- ①手紙ではなく、直接話したい。
 - ②直接会えば、もっと多くのことを教えることができる。
*その内容は、ヨハネの手紙第一に記されたものに近いのであろう。
 - ③直接会って話ができれば、私たちの喜びは満ち溢れる。

2. 13節

2Jn 1:13 選ばれたあなたの姉妹の子どもたちが、あなたによろしくと言っています。

- (1) 「あなたの姉妹の子どもたち」
- ①姉妹教会のメンバーたち
 - ②この教会も、「選ばれた」教会である。
 - ③姉妹教会のメンバーが、よろしくと言っている。
 - ④教会の合同性が表現されている。

3. まとめ

- (1) 互いに愛し合うということが、クリスチャン生活のゴールである。
- (2) 愛し合うためには、キリストの真理にとどまり続ける必要がある。
- (3) キリストの真理の「先を行く」人は、自分勝手に歩む人である。
- (4) その人は、救いを失うことはないが、報いは失う。
- (5) 異端の教えを持ち込む人とは、絶交すべきである。
- (6) 真理に関しては、妥協も寛容もあってはならない。

60分でわかる新約聖書(25) 「ヨハネの手紙第三」

1. はじめに

(1) 3ヨハの位置づけ

- ①ガイオという人物に宛てられた個人的手紙である。
- ②新約聖書の中では、個人的手紙は2つだけである。
 - *ピレモンへの手紙(著者パウロ)
 - *ヨハネの手紙第三(著者ヨハネ)
- ③テモテへの手紙第一と第二、テトスへの手紙
 - *この3つは、牧会書簡と呼ばれる。
 - *教会全体で朗読されたと思われる。
- ④ヨハネの手紙第三は、初期の信者たちの交流について情報を与えてくれる。
 - *内容は、極めて霊的なものである。
- ⑤著作年代に関する議論
 - *1ヨハや2ヨハと同じ議論が可能である。
 - *エルサレム崩壊の前(60年代)に、エルサレムで書かれた。

(2) 著者

- ①ヨハネの手紙第一、第二、第三は、伝統的に使徒ヨハネのものとされている。
- ②1ヨハには、著者名も宛名も記されていない。
- ③2ヨハと3ヨハでは、「長老」という呼称が出て来る。
 - *「長老」としてその存在が知られていた人物は、使徒ヨハネだけである。
- ④書簡のスタイルは、1ヨハや2ヨハと同じである。

(3) 執筆の背景と目的

- ①ヨハネは、ガイオが所属する教会の霊的状态について心配している。
- ②恐らく、アジアのどこかにあった教会であろう。
- ③ひとりの人物が権力を握り、教会を支配している。
- ④3人の名前が出て来る。
 - *ガイオ(信頼できる指導者)
 - *ディオテレペス(支配的指導者)
 - *デメテリオ(信頼できる巡回教師)

2. アウトライン

- (1) あいさつ(1~4節)
- (2) 本文

- ① ガイオ (5～8 節)
- ② ディオテレペス (9～11 節)
- ③ デメテリオ (12 節)
- (3) 結語 (13～15 節)

ヨハネの手紙第三から教訓を学ぶ。

I. あいさつ (1～4 節)

1. 1 節

3Jn 1:1 長老から、愛するガイオへ。私はあなたを本当に愛しています。

(1) 「長老から」

① 著者は、ヨハネである。

(2) 「愛するガイオへ。私はあなたを本当に愛しています」

① 受取人は、ガイオである。

② これは、ガイオに対する愛に溢れた手紙である。

③ 新約聖書の書簡にある通常の挨拶とは異なる。

* 恵みと平安という言葉がない。

* 結語 (15 節) は、「平安があなたにありますように」となっている。

④ 「愛する者よ」という呼びかけが、3 度も出てくる (2 節、5 節、11 節)。

⑤ ヨハネがガイオに示しているのは、クリスチャンの愛である。

⑥ ガイオもまた、そのような愛を巡回教師に示している。

2. 2 節

3Jn 1:2 愛する者よ。あなたのたましいが幸いを得ているように、あなたがすべての点で幸いを得、また健康であるように祈ります。

(1) 「あなたのたましいが幸いを得ているように、」

① ヨハネは、ガイオが霊的に祝福されていると確信している。

(2) 「あなたがすべての点で幸いを得、また健康であるように祈ります」

① ヨハネは、肉体の健康を含めた地上的な祝福も大切だと認識している。

② 聖書的人間観では、霊肉は不可分の関係にある。

③ ヨハネは、地上的な祝福の重要性を主イエスから学んだのであろう。

④ ヨハネの福音書には、人々の最善を願う主イエスの姿が描かれている。

⑤ 私たちも、お互いのためにヨハネのこの祈りを献げようではないか。

3. 3～4 節

3Jn 1:3 兄弟たちがやって来ては、あなたが真理に歩んでいることを証ししてくれるので、私は大いに喜んでいますが。実際、あなたは真理のうちに歩んでいます。

3Jn 1:4 私にとって、自分の子どもたちが真理のうちに歩んでいることを聞くこと以上の大きな喜びはありません。

(1) 「兄弟たちがやって来ては、」

- ①兄弟たちとは、ガイオのもてなしを受けた巡回教師たちであろう。
- ②彼らは、ガイオが真理に歩んでいることをヨハネに向かって証言している。
- ③真理に歩むとは、正しい教理に留まり、愛を実践することである。
- ④ヨハネにとっては、真理と愛は不可分の関係にある。
- ⑤真理は、愛を行う際の土台である。

(2) ヨハネは、ガイオが真理に歩んでいることを大いに喜んでいて。

①2ヨハ1:4

2Jn 1:4 御父から私たちが受けた命令のとおり、真理のうちに歩んでいる人たちが、あなたの子どもたちの中にいるのを知って、私は大いに喜んでいますが。

②ガイオは、ヨハネから見て「自分の子どもたち」のひとりである。

*ヨハネがガイオを救いに導いたのでであろう。

*あるいは、霊的権威を持つ者として書いているだけかもしれない。

③パウロも、同じ言葉を使っている(1コリ4:14)。

1Co 4:14 私がこれらのことを書くのは、あなたがたに恥ずかしい思いをさせるためではなく、私の愛する子どもとして諭すためです。

II. 本文

1. ガイオ(5~8節)

1. 5節

3Jn 1:5 愛する者よ。あなたは、兄弟たちのための、それもよそから来た人たちのための働きを忠実に従っています。

(1) 巡回教師たちを受け入れることが、真理に歩む信者の愛の行為である。

①前の手紙では、偽教師は拒否すべきだと教えられていた(2ヨハ1:10~11)。

2Jn 1:10 あなたがたのところに来る人で、この教えを携えていない者は、家に受け入れてはいけません。あいさつのことばをかけてもいけません。

2Jn 1:11 そういう人にあいさつすれば、その悪い行いをともにすることになります。

②真の教師を受け入れることは、信者の責務である。

(2) ガイオは、忠実に巡回教師たちを受け入れ、もてなしていた。

①ガイオは真理に歩み、信者の愛を実践していた。

- ②ヨハネとガイオは、同じ愛を共有していた。
- ③それは、キリストから学んだ愛である。

2. 6～7節

3Jn 1:6 彼らは教会の集まりで、あなたの愛について証しました。あなたが彼らを、神にふさわしい仕方で送り出してくれるなら、それは立派な行いです。

3Jn 1:7 彼らは御名のために、異邦人からは何も受けずに出て行ったのです。

- (1) ガイオのもてなしを受けた者たちが、その体験を教会の集まりで証した。
 - ①この書簡は、エルサレム崩壊の前(60年代)に書かれたと考えられる。
 - ②「**教会の集まり**」とは、エルサレム教会であろう。
 - ③今ヨハネは、エルサレム教会で奉仕をしている。
 - ④ガイオは、この教会に自分が知られていることを知って、喜んだはずである。

- (2) ヨハネは、愛の実践を継続して行うようにガイオを励ましている。
 - ①「**神にふさわしい仕方で送り出してくれるなら、**」
 - ②滞在中だけでなく、旅立つ際には必要なものを十分に与えるということ。
 - ③神から無代価で恵みを受けたので、無代価で恵みを分かち合うべきである。

- (3) 「**彼らは御名のために、異邦人からは何も受けずに出て行ったのです**」
 - ①「**御名のために**」とは、イエス・キリストのためということである。
 - ②ピリ2:9～11

Php 2:9 それゆえ神は、この方を高く上げて、／すべての名にまさる名を与えられました。

Php 2:10 それは、イエスの名によって、／天にあるもの、地にあるもの、／地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、

Php 2:11 すべての舌が／「イエス・キリストは主です」と告白して、／父なる神に栄光を帰するためです。

- ③主イエスの代理人として出て行くのは、大いなる特権である。
- ④御名のために苦しむことさえも、特権である(使5:41)。
- ⑤御名のために奉仕する人は、不信者から支援を受けるべきではない。
 - *不信者に誤解を与える可能性がある。

3. 8節

3Jn 1:8 私たちはこのような人々を受け入れるべきです。そうすれば、私たちは真理のために働く同労者となれます。

- (1) 巡回教師を支援するのは、信者の責務である。
 - ①この愛の行為を行うなら、「**真理のために働く同労者**」となれる。

②今も伝道者や伝道団体を支援する人は、「真理のために働く同労者」である。

2. ディオテレペス(9~11節)

1. 9節

3Jn 1:9 私は教会に少しばかり書き送りましたが、彼らの中でかしらになりたがっているディオテレペスが、私たちを受け入れません。

(1) 「私は教会に少しばかり書き送りましたが、」

- ①この教会は、ガイオが所属している教会である。
- ②この教会には、ガイオのような指導者ばかりがいたわけではない。
- ③ディオテレペスは、問題のある指導者である。
- ④ヨハネは、この教会にすでに手紙を書き送った(今は失われている)。
- ⑤ディオテレペスが妨害したのか、それが教会に知らされることはなかった。

(2) ディオテレペスの問題点

- ①彼のゴールは、真理に歩み、愛を实践することではない。
- ②彼は、教会の中でナンバーワンになりたがっている。
- ③今も、教会での地位や役割を、自分の栄光のために利用する人がいる。
- ④ディオテレペスは真理に立っていないので、ヨハネの教えと対立する。
- ⑤ディオテレペスは、巡回教師たちを受け入れない。
- ⑥それは、彼らを推薦するヨハネを受け入れないのと同じことである。

2. 10節

3Jn 1:10 ですから、私が行ったなら、彼のしている行為を指摘するつもりです。彼は意地悪なことばで私たちをののしっています。それでも満足せず、兄弟たちを受け入れないばかりか、受け入れたいと思う人たちの邪魔をし、教会から追い出しています。

(1) ヨハネは、教会を訪問し、ディオテレペスの問題に対処するつもりでいる。

- ①単にその行為を指摘するだけでなく、厳格に対処するということ。
- ②これは、ガイオに対する励ましの言葉でもある。

(2) ディオテレペスは、3つの罪を犯している。

- ①意地悪なことばで、真理に歩む人たちをののしっている。
*これは、偽りの告発である。
- ②意地悪な言葉でののしるだけでなく、語った内容を実行している。
*巡回教師を受け入れたいと思う人たちの邪魔をしている。
- ③巡回教師たちを受け入れる人たちを、教会から追い出している。
*ディオテレペスは、自分に与えられている権威を悪用している。

*ガイオは、ディオテレペスに対抗して愛を実践している。

3. 11 節

3Jn 1:11 愛する者よ。悪を見習わないで、善を見習いなさい。善を行う者は神から出た者であり、悪を行う者は神を見たことがない者です。

(1) ヨハネは、ガイオに対する励ましの言葉を語る。

- ①ディオテレペスが行っていることの真似をしてはならない。
- ②むしろ、善を見習うべきである。

(2) 信者の行為は、神との関係の反映である。

- ①善を行う者は、神と親密な関係にある。
- ②悪を行う者は、神を知らない者である。
- ③1ヨハ3:6

1Jn 3:6 キリストにとどまる者はだれも、罪を犯しません。罪を犯す者はだれも、キリストを見たこともなく、知ってもいません。

- ④ヨハネは、ディオテレペスの救いを疑っているのではない。
- ⑤彼の行為は、霊的な盲目状態を明らかにしていると言っているのである。

3. デメテリオ (12 節)

1. 12 節

3Jn 1:12 デメテリオについては、すべての人たちが、また真理そのものが証ししています。私たちも証しします。私たちの証しが真実であることは、あなたも知っています。

(1) ガイオに対して、デメテリオを受け入れるように勧めている。

- ①このデメテリオは、エペソの銀細工人のデメテリオではない(使19:24)。
- ②デメテリオを受け入れることは、善を見習うことである。

(2) デメテリオが真理に歩んでいることは、3つの証拠が示している(申19:15)。

- ①彼を知っているすべての信者が、彼を高く評価している。
- ②真理そのものが証ししている。

*これは、真理の擬人化である。

*デメテリオの行為は、真理の実践である。

③ヨハネが個人的に証言する。

*ヨハネの証言は、真実である。

(3) 以上の理由で、他の巡回教師と同様にデメテリオを受け入れるべきである。

Ⅲ. 結語(13~15節)

1. 13~14節

3Jn 1:13 あなたに書き送るべきことがたくさんありますが、墨と筆で書きたくありません。

3Jn 1:14 近いうちにあなたに会いたいと思います。そうしたら、直接話し合しましょう。

(1) ヨハネには、他にも書きたいことがたくさんあった。

①しかし彼は、手紙での交流よりも、直接訪問することを願った。

②そうすれば、面と向かって話し合うことができる。

2. 15節

3Jn 1:15 平安があなたにありますように。友人たちが、あなたによろしくと言っていきます。そちらの友人たち一人ひとりによろしく伝えてください。

(1) 最後に、「平安」という言葉が出て来る。

(2) 「友人たち」という言葉が2度出てくる。

①ヨハネとともにいる友人たち

②そちらの友人たち

③普遍的教会とは、友人たちのネットワークである。

④同じ真理と信仰を持つなら、初対面の人でも友人である。

⑤真理に立って愛を実践することが、クリスチャン生活の神髄である。

60分でわかる新約聖書（26） 「ユダの手紙」

1. はじめに

(1) 著者と宛先

- ①「イエス・キリストのしもべ、ヤコブの兄弟ユダ」と自己紹介をしている。
- ②ユダが誰であるかについては伝統的に2つの考え方がある。
 - *主イエスの弟のユダ
 - *12使徒の中のイスカリオテのユダでない方のユダ（別名タダイ）
- ③この手紙は極めてユダヤ的なものである。
 - *比喩的表現がたくさん出て来る。
 - *似たような言葉が3つ並ぶ。
 - *旧約聖書への言及が多い。
- ④2ペテの内容との重複があるので、2ペテと同じ宛先だと判断される。
 - *彼らは、小アジアの各地に離散した信者たちである。
- ⑤2ペテは、64年～68年（殉教の死の年）の間に書かれたと思われる。
- ⑥ユダの手紙は、それ以降に執筆された。
- ⑦当時、グノーシス主義という異端が教会内に広がりつつあった。

(2) 執筆目的

- ①この手紙が書かれた目的は、偽教師に対する注意を喚起すること。
- ②さらに、読者に自分たちが何者であるかを認識させること。
- ③パウロは、エペソの長老たちに警告していた（使20:29～30、1テモ4:1）。
- ④ペテロも、「偽教師が現われます」（2ペテ2:1）と預言していた。

2. アウトライン

- (1) あいさつ（1～2節）
- (2) 偽教師の出現（3～16節）
- (3) 信者の責務（17～23節）
- (4) 頌栄（24～25節）

ユダの手紙から教訓を学ぶ。

I. あいさつ（1～2節）

1. 1～2節

Jud 1:1 イエス・キリストのしもべ、ヤコブの兄弟ユダから、父なる神にあって愛され、イエス・キリストによって守られている、召された方々へ。

Jud 1:2 あわれみと平安と愛が、あなたがたにますます豊かに与えられますように。

(1) ユダは、信者の立場を3つの角度から描写している。

- ①愛されている。私たちは父なる神から愛されているお互いである。
- ②召されている。私たちをこの世から召し出すのは、聖霊なる神の働きである。
- ③守られている。私たちはキリストにあって、キリストのために守られている。

II. 偽教師の出現(3~16節)

1. 3~4節

Jud 1:3 愛する者たち。私たちがともにあずかっている救いについて、私はあなたがたに手紙を書こうと心から願っていましたが、聖徒たちにひとたび伝えられた信仰のために戦うよう、あなたがたに勧める手紙を書く必要が生じました。

Jud 1:4 それは、ある者たちが忍び込んできたからです。彼らは不敬虔な者たちで、私たちの神の恵みを放縱に変え、唯一の支配者であり私たちの主であるイエス・キリストを否定しているので、以下のようなさばきにあうと昔から記されています。

(1) ユダは、最初は救いに関する喜びの手紙を書こうとしていた。

- ①しかし、その前に別のテーマで手紙を書く必要に迫られた。
- ②「聖徒たちにひとたび伝えられた信仰のために戦う」ということである。
- ③「使徒たちの教え」から逸脱する者は、偽教師である。

*旧約のメシア預言は、イエスにあって成就した(ヘブ1:1~2)。

*キリストは、罪人を救うために人となり、十字架上で呪いの死を遂げ、墓に葬られ、3日目に甦られた(1コリ15:3~8)。

(2) 偽教師の出現

- ①「それは、ある者たちが忍び込んできたからです」

*裏口からこっそりと入ってくるようなものである。

- ②ユダは彼らの特徴を3つ上げている。

*不敬虔な者たち。神の恵みを放縱な生活の口実に変える者たち

*イエス・キリストが神であり救い主であることを否定する人たち

*さばきにあうと昔から記されている人たち

2. 5~7節

Jud 1:5 あなたがたはすべてのことをよく知っていますが、思い起こしてほしいのです。イエスは民をエジプトの地から救い出しましたが、その後、信じなかった者たちを滅ぼされました。

Jud 1:6 またイエスは、自分の領分を守らずに自分のいるべき所を捨てた御使いたちを、大いなる日のさばきのために、永遠の鎖につないで暗闇の下に閉じ込められました。

Jud 1:7 その御使いたちと同じように、ソドムやゴモラ、および周辺の町々も、淫行にふけて不自然な肉欲を追い求めたため、永遠の火の刑罰を受けて見せしめにされています。

(1) ユダは、旧約聖書の事例を3つ挙げている。

①荒野でのさばき

- *イスラエルの民は、荒野で一部の例外を除いて全員滅ぼされた。
- *不信仰のゆえである(1コリ10:1~11、民14:26~38)。

②墮天使たちのさばき

- *墮天使たちが、人間の姿を取って人の娘たちと結婚した(創6章)。
- *創3:15に約束された「女の子孫」の到来を妨害するためである。
- *墮天使たちは、今は暗闇の中に閉じ込められている。

③ソドムとゴモラのさばき

- *不自然な肉欲のために硫黄の火によって滅ぼされた(創19:1~28)。
- *「不自然な肉欲」とは、同性愛のことである。

3. 8~10節

Jud 1:8 それにもかかわらず、この人たちは同じように夢にふけて、肉体を汚し、権威を認めず、栄光ある者たちをののしっています。

Jud 1:9 御使いのかしらミカエルは、モーセのからだについて悪魔と論じて言い争ったとき、ののしってさばきを宣言することはあえてせず、むしろ「主がおまえをとがめてくださるように」と言いました。

Jud 1:10 しかし、この人たちは自分が知りもしないことを悪く言い、わきまのない動物のように、本能で知るような事柄によって滅びるのです。

(1) ユダは、偽教師たちの5つの行為を上げている。

①彼らは、肉体を汚している。

- *預言的な夢を、性的放縦を許すための口実に用いる。

②彼らは、権威を軽んじている。

- *使徒たちや長老たちの権威を拒み、それに反抗する。

③彼らは、栄光ある者たちをののしっている。

- *御使いをののしることは、神を汚すことである。
- *ユダは、旧約偽典「モーセの昇天」の内容を引用している。
- *天使ミカエルは、悪魔をののしらなかった。
- *ユダは、引用した箇所は正確に書かれていることを認めている。

④彼らは、自分には理解もできないことを悪く言っている。

- *御霊を持っていないので、霊的真理を理解することができない。

⑤彼らは、動物のように本能だけで判断し、行動している。

4. 11 節

Jud 1:11 わざわいだ。彼らはカインの道を行き、利益のためにバラムの迷いに陥り、コラのように背いて滅びます。

(1) ユダは、旧約聖書の失敗者3人を例に出している。

①「カインの道を行き」とは、神に反抗する道を歩んでいるということである。

*カインは、弟のアベルを殺して最初の殺人者となった。

②「バラムの迷いに陥り」とは、利益のために仕えるということである。

*彼は、神の御心に背いてイスラエルの民を呪おうとした(民22～24章)。

③「コラのように背いて」とは、願いを達成するために権威に反抗すること。

*モーセとアロンに反抗し、家族とともに割れ目に落ちた(民16章)。

5. 12～13 節

Jud 1:12 この人たちは、あなたがたの愛餐のしみです。恐れる心もなく一緒に食事をしますが、自分を養っているだけです。彼らは、風に吹き流される雨無し雲、枯れに枯れて根こそぎにされた、実りなき秋の木、

Jud 1:13 自分の恥を泡立たせる海の荒波、真っ暗な闇が永遠に用意されている、さまよえる星です。

(1) ユダは、6つの象徴的表現によって偽教師の本質をあばき出している。

①愛餐のしみ

*「しみ」は隠れた小石である。「暗礁(かくれいわ)」(文語訳)

*知らないで食事をしていて、その小石によって歯がかけてしまう。

②偽の牧者

*彼らは羊を飼うことを忘れ、自分だけを養っている。

③水のない雲

*それは風が吹いてくると、消えてなくなる。

④根こそぎにされた秋の木

*春の収穫期にも、秋の収穫期にも実を結ぶことがない木

⑤自分の恥を泡立たせる海の荒波

*偽教師は落ち着きがなく、常に騒がしくしている。

⑥さまよえる星

*偽教師たちは、墮落した天使の道を歩んでいる。

6. 14～15 節

Jud 1:14 アダムから七代目のエノクも、彼らについてこう預言しました。「見よ、主は何万もの聖徒を引き連れて来られる。

Jud 1:15 すべての者にさばきを行い、不敬虔に生きる者たちのすべての不敬虔な行いと、不敬虔な罪人たちが主に逆らって語ったすべての暴言について、皆を罪に定めるためである。」

- (1) ユダは、旧約偽典の『エノク書』から引用している。
 - ①エノクの預言が記されているその箇所だけは正しいと認めた。
 - ②エノクの預言の内容は、メシアの再臨に関するものである。
 - ③偽教師は、キリスト再臨の時に罪に定められる。

7. 16 節

Jud 1:16 彼らは、ぶつぶつ不満を並べる者たちで、自らの欲望のままに生きています。その口は大きなことを語り、利益のために人にへつらいます。

- (1) さらにユダは、偽教師の実態を3つ描写している。
 - ①彼らは、荒野の民のように、つぶやき、不平を鳴らす者たちである。
 - ②彼らは、自分の欲望を神として歩んでいる者たちである。
 - ③彼らは、大きなことを言ったり、へつらったりしながら、自分の益になることだけを考えて生きている者たちである。

III. 信者の責務（17～23 節）

1. 17～19 節

Jud 1:17 愛する者たち。あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの使徒たちが前もって語ったことばを思い起こしなさい。

Jud 1:18 彼らはあなたがたにこう言いました。「終わりの時には、嘲る者たちが現れて、自分の不敬虔な欲望のままにふるまう。」

Jud 1:19 この人たちは、分裂を引き起こす、生まれつきのままの人間で、御霊を持っていません。

- (1) 思い起こす
 - ①偽教師や嘲る者たちの出現は、あらかじめ警告されていたことである。
 - ②2 ペテ 2 章は偽教師を扱い、3 章はあざける者どもを扱っている。
 - *あざける者どもとは、自分の欲望に従って生きる者たちである。
 - *彼らは、キリストの再臨の教理をあざけた。
 - ③パウロも同じような警告を発している（使 20：29、2 テモ 3：1～5）。
- (2) ユダは彼らの性質を3つ上げている。
 - ①彼らは、キリストの教会の中に分裂を起こす。
 - ②彼らは生まれつきのままの人間である。
 - ③彼らは、御霊を持っていない。

(3) 偽教師やあざける者と戦うための武器は「啓示されたみことば」。

①つまり、旧約聖書と新約聖書である。

②それを常に思い出す必要がある。

2. 20～21 節

Jud 1:20 しかし、愛する者たち。あなたがたは自分たちの最も聖なる信仰の上に、自分自身を築き上げなさい。聖霊によって祈りなさい。

Jud 1:21 神の愛のうちに自分自身を保ち、永遠のいのちに導く、私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。

(1) 「最も聖なる信仰」とは、使徒たちの教えを信じる信仰である。

①その信仰の上に、霊的成長を目指して自分自身を築き上げる。

②使徒たちの教えは、新約聖書の中に記録されている。

(2) 三位一体の神との関係

①聖霊によって祈る。

*聖霊の働きは、私たちに聖書を理解させることである。

②神の愛のうちに自分自身を保つ。

*父なる神の愛の内に留まるように、常に注意を払う。

③主イエス・キリストのあわれみを待ち望む。

*地上に患難時代が来る直前に、教会は空中に引き上げられる。

*携挙は、主イエス・キリストのあわれみによって起こることである。

3. 22～23 節

Jud 1:22 ある人々が疑いを抱くなら、その人たちをあわれみなさい。

Jud 1:23 ほかの人たちは、火の中からつかみ出して救いなさい。また、ほかの人たちは、肉によって汚された下着さえ忌み嫌い、神を恐れつつあわれみなさい。

(1) 3種類の兄弟たちへの奉仕

①疑いを抱いている人々

*正当な疑問を抱き、真実に答えを求めている人々

*正しい教理を教え、信仰の成長に役立つような助言をすべきである。

②偽教師の影響を受け、誤った道に進みつつある人々

*「火の中からつかみ出して救いなさい」

*ここでの「救い」とは、誤った教理からの救いである。

③2番目よりも程度が進んだ人々

*偽教師の影響を受けて、自ら異端的な教えを言い広めている。

- *自分自身も、彼らの影響を受ける可能性がある。
- *キリストによって着せられた義の衣に汚れが付く恐れがある。
- *「肉によって汚された下着さえ忌み嫌い」とは、比喩的言葉である。
- *なんでもない会話（下着）さえも、注意する必要がある。

IV. 頌栄（24～25節）

1. 24～25節

Jud 1:24 あなたがたを、つまづかないように守ることができ、傷のない者として、大きな喜びとともに栄光の御前に立たせることができる方、

Jud 1:25 私たちの救い主である唯一の神に、私たちの主イエス・キリストを通して、栄光、威厳、支配、権威が、永遠の昔も今も、世々限りなくありますように。アーメン。

(1) ユダは、神に可能な2つのことを上げている。

①神は、私たちがつまづかないように守ることのできるお方である。

*「守る」というのは軍隊用語である。

②神は、私たちが栄光の御前に立たせてくださるお方である。

*私たちは、完璧な姿で主の栄光の前に立つようになる。

(2) ユダは、神の8つの性質を上げている。

①神は唯一のお方である。

*これは、多神教への回答である。

②この方は、唯一の救い主である。

*偽教師たちは、キリストの神性もメシア性も否定していた。

③救いはキリストを通して与えられる。

④神は栄光に富んだお方である。

⑤神は尊厳に満ちたお方である。

⑥神は支配する力を持ったお方である。

*神の許しがなければ何一つ起こることはない。

⑦神は権威を持ったお方である。

*ご自信の計画を、必ず成就することができる。

⑧神は永遠に存在しているお方である。

(3) 私たちが信じる神は、かくも偉大なお方である。

60分でわかる新約聖書(27) 「ヨハネの黙示録」
(新改訳第3版)

1. はじめに

- (1) 黙示録は、旧新約聖書に散らばっている預言を時間順にまとめた書である。
 - ①ダニ9:25~27(70週の預言)
 - ②マタイ24~25章(オリーブ山の説教)
 - ③2テサ2:1~12、テト2:13~14(携挙)
- (2) 黙示録は、最終ゴールである新天新地に至る道筋を示した書である。
 - ①携挙、反キリストの登場、患難期、イスラエルの救い、再臨、千年王国、白い御座の裁き、新天新地

2. アウトライン

- (1) 著者と宛先
- (2) 4つのアプローチ(解釈法)
- (3) 黙示録の3区分
 - ①あなたの見た事
 - ②今ある事
 - ③この後に起こる事
- (4) 黙示録を学ぶ者に与えられる祝福

ヨハネの黙示録から教訓を学ぶ。

I. 著者と宛先

- 1. 著者は、使徒ヨハネである。

(1) 内的証拠

- ①黙示1:1、4、9は、「私」(著者)が「ヨハネ」であると証言している。
「イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった」(1:1)
- ②当時ヨハネは、エーゲ海のパトモス島に幽閉されていた。
- ③この島で、ヨハネは神からの啓示を受け、それを書き記した。
- ④この書が書かれたのは、紀元95年頃である。

(2) 外的証拠

- ①ヨハネ著作説を認めた代表的な教会指導者たち
*殉教者ユスティノス

- *エイレナイオス
- *アレクサンドリアのクレメンس
- *テルトリアヌス

2. 宛先は、迫害に遭っている信者たちである。

- (1) この時代のクリスチャンは、そのほとんどが第2世代の信者たちであった。
 - ①迫害は、第2世代の信者たちの信仰を試し、揺さぶった。
 - ②ローマ帝国の迫害によって、殉教の死を遂げる者も出始めていた(2:13)。
 - ③信者たちは、未来に希望の光を見る必要があった。
- (2) 黙示録の特徴は、次の2点に集約される。
 - ①黙示録は、忍耐をもって迫害を耐え忍ぶようにという勧告の書である。
 - ②黙示録は、終わりの日には、悪は必ず滅ぼされるという預言の書である。

II. 4つのアプローチ（解釈法）

1. 歴史的アプローチ

「黙示録は、紀元1世紀からメシアの再臨に至るまでの教会史の預言的パノラマを提供している」

- (1) 黙示録を「教会史の預言」と見るので、「歴史的アプローチ」と呼ばれる。
 - ①このアプローチが誕生したのは、紀元4世紀である。
 - ②当時の教会が置かれていた状況と黙示録の間に相関関係があると考えた。
 - ③12世紀、フィオーレのヨアキムが、このアプローチを広めた。
 - ④16世紀、宗教改革者たちも、この説を支持した。
 - *宗教改革の敵であったカトリックの法王を反キリストと見なした。
 - ⑤「〇〇が反キリストである」という主張は、このアプローチの特徴である。
- (2) 黙示録は、分散して語られた預言を、時間順に並べ直した書である。
 - ①歴史的アプローチでは、終末的出来事の流れを説明することができない。

2. 比喩的アプローチ

「黙示録は、今も続いている神と悪魔の戦い、善と悪の戦いを、象徴的に描写したものである」

- (1) アレクサンドリア学派の神学（オリゲネス）に特徴的な解釈法である。
 - ①ギリシア哲学の影響を受けた神学体系である。
 - ②霊を善、物質を悪とみなす傾向が非常に強い神学体系である。
 - ③文字通りの千年王国を信じる信仰を否定する。

④「無千年王国説」を最初に提唱したのは、アウグスチヌスである。

(2) 比喩的アプローチには、致命的欠陥がある。

- ①なぜ黙示録が迫害下にある聖徒たちの慰めになるのか分からなくなる。
- ②「四十二か月」(11:2)や「千二百六十日」(12:6)などが意味不明。
- ③象徴的言葉は、将来登場する具体的な人物や出来事を指し示している。
- ④比喩的アプローチでは、黙示録の本当の意味を解明することができない。

3. 預言成就的アプローチ

「黙示録の預言は、紀元70年に、ティトゥス将軍とローマ軍がエルサレムを滅ぼし、神殿を破壊した時に、すべて成就した。従って、黙示録は将来の出来事を預言しているわけではない」

(1) キリストの昇天から神殿の崩壊までの期間に、黙示録の預言は成就した。

- ①このアプローチが主張する内容は、黙示録自身の証言と矛盾する。
- ②黙示録は、その内容が終末的預言であると自己証言している。

「この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである」(1:3)

「見よ。わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを堅く守る者は、幸いである」(22:7)

(2) 黙示9章18節には、人類の3分の1が殺されるという預言がある。

- ①紀元70年に多くの死者が出たが、人類の3分の1が死んだわけではない。

4. 未来的アプローチ

「黙示録のほとんどは、メシアの再臨の前に起こる終末時代の出来事の預言である」

(1) 未来的アプローチは、黙示録の字義通りの解釈と調和するアプローチである。

- ①字義通りの解釈を行わなければ、黙示録は要が外れた扇のようになる。
- ②初臨に関する旧約の預言は100以上あるが、すべて文字通りに成就した。
- ③再臨に関する預言も、文字通り成就すると考えるのが最も合理的である。
- ④初期の教会の指導者たちは、未来的アプローチに立っていた。
- ⑤筆者もまた、このアプローチを採用している。
- ⑥黙示録のテーマ聖句は、1章7節である。

「見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン」(1:7)

III. 黙示録の3区分

はじめに

(1) アウトラインを示す聖句は、1章19節である。

「そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ」(1:19)

1. あなたの見た事(1:9~20)

(1) ヨハネは、パトモス島で、天におられる栄光のキリストを目撃した。

- ① 地上的なイエス・キリストのイメージしかない人には、衝撃的な幻である。
- ② キリストは、地上の教会の様子を熟知しておられる。

(2) 「あなたの見た事」の内容は、3つの部分に分かれる。

- ① ラッパの音のような大きな声(1:9~11)
- ② 栄光に輝く人の子(1:12~16)
- ③ 幻の解釈(1:17~20)

2. 今ある事(2:1~3:22)

(1) 今ある事は、教会時代の描写で、7つの教会への手紙となっている。

- ① 7つの手紙は、キリストご自身から地域教会に宛てられたものである。
- ② パウロ書簡を学ぶような熱心さをもってそれを学ぶ人は、余り見かけない。
- ③ 黙示録の7つの手紙を軽視することは、大きな損失である。

(2) 7つの教会の神学的意味

- ① 7つの教会は、当時小アジアに存在していた実際の地域教会である。
- ② 7つの教会は、教会の7つの型を指し示している。
 - * 教会史のどの時代を取っても、これら7つの型は同時に存在していた。
- ③ 7つの教会は、それぞれの時代の教会の特徴を預言的に表したものである。
 - * 特定の時代においては、ひとつの型が顕著に浮かび上がってくる。

(3) 7つの教会と7つの時代

- ① エペソにある教会は、「使徒時代」の教会の型である。
- ② スミルナにある教会は、「迫害時代」の教会の型である。
- ③ ペルガモにある教会は、「国家と結婚した時代」の教会の型である。
- ④ テアテラにある教会は、「暗黒時代」の教会の型である。
- ⑤ サルディスにある教会は、「宗教改革時代」の教会の型である。
- ⑥ フィラデルフィアにある教会は、「大宣教時代」の教会の型である。
- ⑦ ラオディキアにある教会は、「背教時代」の教会の型である。

3. この後に起こる事 (4:1~22:5)

(1) 大患難時代の前半3年半 (6:1~9:21)

- ①封印の裁き
- ②144,000人のユダヤ人の伝道
- ③第7の封印=ラッパの裁き

(2) 中間期 (10:1~14:20)

- ①10~14章は、挿入箇所である。
- ②物語の時間的進展はなく、状況を解説した文章が出て来る。
- ③大患難時代の神殿
- ④ふたりの証人
- ⑤大患難時代のイスラエル
- ⑥海からの獣(反キリスト)
- ⑦地からの獣(偽預言者)

(3) 大患難時代の後半3年半 (15:1~16:21)

- ①第7のラッパ=鉢の裁き

(4) 反復(再記述の法則) (17:1~18:24)

- ①前半の3年半:教会としての大バビロン(17章)
- ②後半の3年半:政治組織としての大バビロン(18章)

(5) 再臨 (19:1~20:3)

- ①再臨の序曲と再臨そのもの
- ②ハルマゲドンの戦い

(6) メシア的王国(千年王国) (20:4~6)

- ①メシアによる統治
- ②第一の復活

(7) その後の出来事 (20:7~15)

- ①サタンの最後の反乱
- ②白い御座の裁き

(8) 新しい天と新しい地 (21:1~22:5)

IV. 黙示録を学ぶ者に与えられる祝福

1. 黙示録の学びには、少なくとも7つの祝福が伴っている。
 - (1) 神は主権者であり、人類の歴史の支配者であるという確信が与えられる。
 - (2) 神の導きにより、善が悪に勝利するという確信が与えられる。
 - (3) 空中でイエスとお会いする携挙の時が近づいているという希望が与えられる。
 - (4) 召された者と再会し、主と永遠に住むようになるという希望が与えられる。
 - (5) イエス・キリストにある救いの素晴らしさをより深く理解できるようになる。
 - (6) 神のことばである聖書に対する信頼性が増す。
 - (7) 神はご自身の約束に忠実なお方であることを、深く確信するようになる。

2. 黙 22 章 20 節

「これらのことをあかしする方がこう言われる。『しかり。わたしはすぐに来る。』アーメン。主イエスよ、来てください」(22:20)

- (1) 主イエス自身が、証人になられる。
 - ①「しかり。わたしはすぐに来る」
 - ②携挙と再臨は、いつ起こってもおかしくない。
- (2) 聖徒たちの応答
 - ①「アーメン。主イエスよ、来てください」
 - ②「来てください」は、アラム語のマラナ・タから来ている。
 - ③新約時代の聖徒たちが使用していたあいさつの言葉である。
 - ④キリストの再臨は、あらゆる時代の聖徒たちの希望である。